



room2よりroom1を見る。窓側の空間をワンルームとし、見え隠れしながら緩やかにつながる。



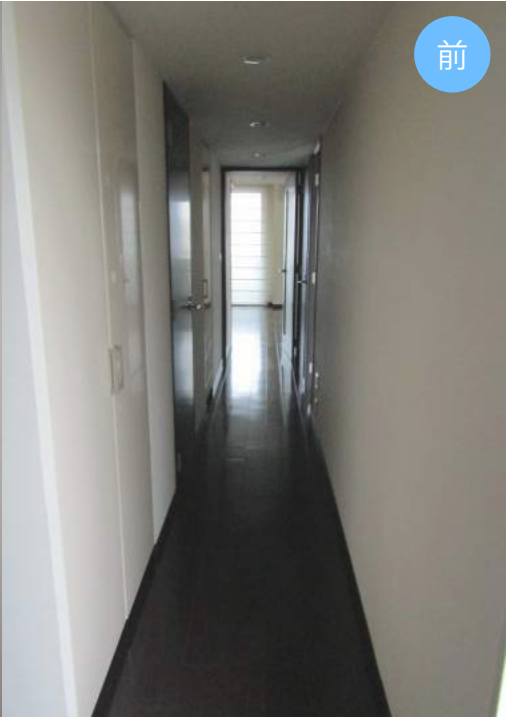
煙突のような木の柱は、PSが通る。



room2の木格子はギャラリーor隠し扉



後



前

中廊下型の一般的な廊下ではなく、空間のつながり目を人の動線として計画した。



room1の日常の風景。ローソファ・テーブルを配置し、板間でありながら、床座の生活を計画した。



room3は応接or離れの書斎として使う。



かさばりがちな敷き布団は壁付け収納へ。強靱な糸を使用し、角度を固定した。



後



前

視線を考慮したカーテンや白を基調とした半島型キッチンで、光を最大限取り入れる。



後



前

木線の意匠を用いて、折上げあごの部分や、既製品のキッチンなどを纏めている。



キッチン後ろから、お風呂、トイレ、洗面といった家事動線を設け、room2へとアクセスできる。また、room2とroom1にも回遊性によりつながる。room2は、昼間には公園のように、夜には寝室として使う、プライベートとパブリックが共存する場所である。